

第1回「食生活ジャーナリスト大賞」受賞者決定

「食生活ジャーナリストの会」(JFJ・約140人)は2017年から食生活ジャーナリスト大賞を創設しました。この大賞は「ジャーナリズム」部門と「食文化」部門の二部門から成り、それぞれの分野ですぐれた業績や活動を残している個人または団体を顕彰するものです。第1回の大賞は以下の団体・個人・グループに決定しました。

■ジャーナリズム部門

<団体名>

一般社団法人「フードコミュニケーションコンパス」

(通称名はFOOCOMと記し、フーコムと呼ぶ。所在地は東京都千代田区飯田橋1-7-11、ダン・リーガルビル4階)

<組織の紹介>

フーコムは新しいネットのメディア媒体。消費者団体も兼ねる。2011年3月、科学ライターの松永和紀さん(女性)と消費生活コンサルタントの森田満樹さん(女性)の2人が立ち上げ、無料で読める「フーコムネット」をウェブ上に開設した。初代の代表は松永さんで、昨年6月からは森田さんが代表を務める。

<受賞の理由>

科学的な根拠に欠ける食情報が氾濫する中、食品の安全性や消費者の健康に関して、科学的な根拠に基づく確かな情報を分かりやすく発信し続けている。発信情報の信頼性は専門家だけでなく、政府、企業、市民団体、メディアからも高く評価されている。各種専門家の個性あふれるコラムが無料で読める点でも評価されている。

■食文化部門

<個人・グループ>

専修大学経営学部(神奈川県川崎市)の森本祥一(しょういち)准教授とゼミ学生

<活動の紹介>

森本さんとゼミ生約10人は課題解決型ビジネスのあり方をめざし、2014年8月、消滅の可能性がある新潟県南魚沼市にある限界集落「辻又集落」(人口約40人)に行き、米のブランド化やライスマルクの商品化、地場産品の東京への売り込みなどで実績を残した。理論と実践の融合を目指す地域活性型ゼミ活動はいまも継続している。

<受賞の理由>

学生たちの取り組みを「大学生、限界集落へ行く」(専修大学出版局・1620円)として出版し、学生の知見や経験が地域の活性化事業に貢献できるという事実を広く知らしめた。また、若い学生たちの情熱、エネルギーが限界集落に住む人たちに希望を与えた点も高く評価された。

■受賞者を表彰する授賞式

4月25日(火)午後6時から、毎日パレスサイドビル9階のレストラン「アラスカ」(東京都千代田区一ツ橋1-1-1、東西線竹橋駅下車)で行います。報道関係者の取材は授賞式で可能です。

【食生活ジャーナリスト大賞とは】

「食に関する情報発信や食文化(食育、料理・調理、地場産業の振興、食文化の継承など)の分野ですぐれた活動や業績を残している個人または団体を顕彰するもの。2017年3月は第1回目で、今後は毎年3月に公表していきます。

■第1回の大賞はJミルク、東洋ライス、バイテク情報普及会の協賛を得ました。